

心つなぐ 槻木の廻り舞台 「秋の会」300人集う



槻木の舞台で「昆虫太極拳」のダンスを発表する泉野保育園児。かわいい演技におひねりも飛び交った

茅野市泉野にある市有形文化財「槻木の舞台」で5日、恒例の「廻り舞台秋の会」が開かれた。廻り舞台をつなぐ地域と子どもたち

の心をテーマに秋の会委員会、ミニミニ運営委員会、ふる里つくり推進協議会が主催。地元の園児や小中学生、この舞台で草履履

を演じた柳川劇団などの出演者を合む300人以上が集い、おひねりも飛び交い、廻り舞台を楽しんだ。

同舞台は約160年前に建てられた。使わなくなつて傷みが進み、舞台も回らずにいたところを児童が地域巡りで目にして区などに働き掛け改修・修復が実現。10年ほど前から行事に活用されている。開会セレモニーで泉野小の朝倉岳児童会長は「昔からある舞台で発表会ができる学校は全国でも多くはない。みんなで楽しみましよう」とあいさつした。

前半は茅野市消防団泉野分団ラッパ隊、八ヶ岳泉龍太鼓の演奏に続いて泉野保育園児が「昆虫太極拳」のダンスを発表。柳川劇団は2年生と「炭坑節」を踊り、保護者や卒業生を仲間に加えて「ぼけない節（替え歌）も披露。来賓の今井敦市長や山田利幸教育長らも一緒に踊っていた。

後半は、東部中吹奏楽部に続いて泉野小児童が登場したが、1、3年の「泉野ソラン」、4年の劇「千支のはしまり」を終えると雨が降り出した。児童全員が舞台上がり、会場全体で「すべてのいのちが「泉野ふるさと」を合唱してお開きとなった。

回校では17日の地域公開参観日に天気が良ければ、残りの発表を同舞台で行う予定。（武井葉子）